2023年度みんなで話そう学童保育ひろば in 春日井 レポート

あそびばクラブ　島田歩実

今回、春日井市さんが主催の学童保育ひろばに参加をさせて頂き、他市の学童保育の実態や実際の声をお聞きし知ることができて、良い機会でした。春日井の学童保育は「公設は34か所で、民間は18か所だよ」というお話が最初にありました。多いのだろうなと感じましたが、正確に理解できるためにもまずは岡崎市の学童保育の実態も私はもっと知るべきだなと思いましたし、せっかく他市の方と交流できる機会なのでそういう時に、岡崎市と比較して考えられるようになっていかなければいけないなと感じました。

保護者さんからのお話をお聞きして特に印象的だったことは、民間のどろんこクラブさんも民間のNPO法人のなかよしクラブさんも、「保護者会で設立された完全な保護者会運営である」と仰っていたことです。さらに「指導員の求人や給与計算もするし、イベントの企画や施設の修繕もしているよ」「指導員の数が足りない時は、保護者に補助をお願いしているよ」と仰っていました。私たちのあまり想像のつかないカタチなので驚きました。同時に、なぜ完全な保護者会運営というカタチでだいぶ負担が大きいだろうにも関わらず、子どもたちの数を確保し続けながら運営できているのだろう、すごいなと率直に感じました。

「親は大変だけど、クラブの良いところも悪いところも知ることができるし、保育内容の希望を指導員さんに出しやすいし、子どもの友達の親御さんとも関わることができるし、良いところもたくさんある」とも仰っていました。あそびばでは、保護者さんにあそびばの良いところもまだまだなところも知ってもらえているのかな？保育内容に対しての希望も、個々人の子どもに対するものはもちろん聞かせて頂いていますが、それ以外にも保護者さんは出せているのかな？本当はもっと、クラブに対して、指導員に対して思っていらっしゃることがたくさんあるだろうけど、それを保護者さんたちが出せているのかな…？と感じました。

保護者さんともっと関わりたいな、もっと保護者さんの声をきいていきたいなという思いはあるのですが、保護者さん方の本業のお仕事もあるし、家に帰れば子育てや家事もあるし、という毎日の中で、学童保育に対してどこまで関わりをこちらから求めることができるのだろう…、就労支援とのバランスが難しいなと改めて実感しました。今考え始めている保護者さんとの交流会も、今後の保護者さんとの関わりも、「負担」ではなく、「やって良かったな」「安心できたな、得るものがあったな」とまずは保護者さんたちにとって何らかのプラスなものを得ることができるように、それを大切にして考えていきたいなと思っています。

そして、保護者さんもおひとりおひとり皆さん性格も思っていらっしゃることも学童に対する考え方も違うのは当然だと思っています。今回のお話の中で江坂さんも仰っていたように、「寄り添う、共感する、も大切だけど、向き合うということがやっぱり大切で、子どもに対しても保護者に対しても、こうしたい、という思いをすくいあげることができるといいね」ということを目標にしていきたいなと感じました。子どもはもちろん、ひとりひとりの

保護者さんに合わせた向き合い方をしていくことで、学童という場所、指導員という存在に安心して心を開くことができると思って頂ける方がひとりでも増えるようにしていきたいなと思います。向き合う、歩み寄ることは私たちの仕事の大切な役割のひとつなので、しっかり大切に日々心に留めて、関わらせて頂きたいなと思っています。

杉谷さんの実践記録を読ませて頂き、タイトルにもある「ただいまとおかえりを繰り返し」というお言葉が特に心に残っています。学童保育での生活は、子どもたちにも保護者さんにも、この「ただいまとおかえりを繰り返すこと」が最も基本的ででも一番大切な向き合い方なのかなと感じました。この積み重ねを毎日繰り返し、安心感や信頼関係を一歩ずつ築いていくのだと思っています。

家庭の事情で途中退所することになった梅ちゃんを、「今年の六年生は、六人と梅ちゃんね」と言い合うやりとりはすごく素敵だと思いました。側にいなくてもずっと気に掛け合っている、心の中にある、という関係性に感動しました。

ちょうど 3 日前の土曜日、中学 2 年生にもうすぐなる卒所生の女の子がひょっこり顔を出しに来てくれました。すごく嬉しくて「またいつでも来てね」と思わずぴょんぴょんとびはねながら言うと、少し照れくさそうに自転車に乗り手を振りながら帰って行きました。また先日は、もうすぐ高校 1 年生になる卒所生の子が「受験！受かったよ！！」と笑顔で報告してくれました。最近、卒所生の子や家庭の事情等で退所してしまった子が顔を出しに来てくれるという機会に恵まれることが多く、とても、とても嬉しいです。6 年生まで登所する子も、いろいろな事情があって途中で辞めざるをえない子も。過ごした時間はそれぞれですが、卒所しても退所しても、「あそびばの一員」であることにずっと変わりはないと思っています。辞めてしまったから終わりではないです。心の中でお互いに存在がずっと残っている、そんな関係性が素敵だなと思っています。平岩先生がいつも卒所証書で書いていらっしゃる「いつでもあそびばクラブにあそびに来てください。可愛い後輩や指導員たちがいつでもみんなを待っています」というお言葉がすごく好きです。卒所や退所をしてまた新たな道を歩き出す子どもたちですが、充実した毎日の中でも完全に消えてしまうことなくあそびばの存在や思い出が心の片隅のどこかに残っていて、困った時や嬉しかった時、生活の中で、ふと思い出したくなるようなそんな居場所にしたいなと思っています。これからもそんな居場所となっていけるよう、子どもたちひとりひとりと丁寧に関わっていきます。